

新会長インタビュー



東京土木施工管理技士会
会長 寺田 光宏

令和2年度定時総会により寺田光宏氏（東急建設社長）が新会長に就任しました。就任にあたり抱負やこれまでの経歴についてお話を伺いました。

Q. 東急建設に入社する前の経歴について教えてください

A. 出身は、静岡県磐田市です。天竜川が近くに流れていて、上流には佐久間ダムや秋葉ダムがあり、橋梁もたくさん架かっている。そんな土木インフラに豊富な地で育ちました。土木の偉人である青山士^{あきら}（※）と同郷でもあります。高校卒業後は、徳島大学工学部建設工学科に進学しました。在学中はダムの研究室に所属し、ロックフィルダムの盛土材料について研究を進めました。

Q. これまでの仕事内容について教えてください

A. 現場で体を動かしたいと思い入社したのが1979(昭和54)年です。最初は大阪支店に配属され、以降7年間、兵庫県神戸市の造成現場で汗を流しました。東京支店に異動後は3つの鉄道建設工事に従事しました。そのほとんどの作業は電車が止まってからの勝負なので完全に昼夜逆転の生活で

した。東京に来て最初に携わったのは、東急池上線の立体交差工事です。地上で走っている戸越銀座駅と旗の台駅の間を地下化する工事でした。当社保有技術であるSTRUM^{ストラム}(直下地下・直上高架切替工法)を使った初めての仕事でもあります。一晩で地下に切り替えるという最大のミッションを成功させるため、何度も実験を繰り返したので、本番で成功したときは感動しました。その後、あざみ野駅の建設工事や二子玉川駅のホーム入れ替え工事など約20年間、現場で研さんを積みました。現場数は少ないかもしれませんが、その分濃密な時間を過ごせたと思います。その後は2012年に取締役、18年副社長、そして19年から社長を務めています。

Q. 今回、新会長に就任して、どのようなお気持ちでしょうか

A. 技士会の会員の皆様が土木業としての誇りを持てるようサポートしていきたいと気を引き締めています。担い手の確保と生産性の向上という業界の課題に真剣に向き合っていないといけないと考えています。ICTなどを取り入れて業界全体でタッグを組んで進めていきたいですね。

Q. 新年度に入り、新型コロナウイルスの影響を受け、社会を取り巻く環境も一変しました。とりわけ働き方改革の急務が求められていますがどのような取り組みを進めていますか

A. 内勤のテレワークの推奨のほかに外勤では、消毒、マスクはもちろんのこと、リモートで打ち合わせをするなどの対策を講じてきました。今はアフターコロナにも注力しています。人が密にならないようロボットなどを活用するなど省力化に取り組むことは急務であると考えています。今後

も経済の悪化などが続けば、建設業にとっても厳しい状況になることは否めません。省力化と生産性向上をメインに進めていながら、気候変動を含めた環境問題にもしっかりと取り組みたい。建設業がリーダーシップを取ってSDGs(持続可能な開発目標)に取り組む必要性を感じています。

Q. さまざまな取り組みを進めていくうえでの原動力となるものはありますか

A. 熱意を持って取り組む、その源にあるのは「土木屋としてのプライド」です。人々の生活の基盤になるのが土木の仕事。苦勞してつくった道路や橋を多くの人が安心して使ってくれることがありがたいですし、誇りに思っています。多くの仲間にもその誇りを持って仕事をしてほしい。それは会長に就任してから変わらない使命であると実感しています。新潟県の大河津分水の大堰そばには青山士の記念碑があり、何度も足を運んでいるの

ですが、人類のため、国のためと尽力した土木の偉人たちの歴史を知ること、土木屋になって良かったと感じられると思うので、会員の皆様にも見てもらいたいですね。

Q.最後に技術者の皆さんにメッセージをお願いします

A. こんなに良い職業はないと思っています。都市の基盤整備や減災・防災管理の中心にいるんだと誇りを持ってほしいですし、技術力やモチベーションを高めてほしいですね。それをバックアップしていくのが私の使命です。子どもや孫のために造るという気持ちで前に進んでいきましょう。

※青山士(あおやま・あきら)：静岡県磐田市生まれの土木技術者。内村鑑三の門下となり、東京帝国大学工科大学では広井勇の指導を受ける。パナマ運河建設に携わった唯一の日本人として知られる。帰国後は内務省に入省し、東京土木出張所においては荒川放水路の建設を指揮した。また、新潟土木出張所では所長として信濃川大河津分水路の改修工事を指揮した。

優良技術者表彰

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を行っています。例年、総会当日には大変多くの受賞者に参加いただき、表彰式のあと講演会を実施しています。また、パーティにおいて懇親の時間を過ごしていただいています。今年度は、コロナウイルス感染拡大防止により全て中止となったため、受賞者には物足りない思いをさせていただきました。受賞者総数は114名でした。

(一社)全国土木施工管理技士会連合会表彰

(一社)全国土木施工管理技士会連合会表彰として、前出第2条第2項授賞者101名のうち東京都内に現場のあった方々を候補として、事業運営委員会において12名の方を選出し、推薦しました。連合会より優良工事従事技術者として表彰されま

優良技術者表彰 受賞者数と表彰内容

第2条 第2項	101名	国・地方公共団体等が発注した工事で、当該団体から優良工事として表彰を受けた工事に、現場代理人、監理技術者等の立場で業務に従事し、特に優秀な成績をあげ、他の模範となるとして推薦のあった者
第2条 第4項	11名	土木施工技術に関する発明、実用新案、新技術の開発及び論文等に対し、公的機関から表彰された者
第2条 第5項	2名	土木施工管理技術を生かして災害復旧作業や調査等のボランティア活動に参加し、公的機関等から表彰状、感謝状を受けた者

した。

また伊藤寛治 前会長、加藤岩男 理事、水谷景洋 前理事の3名について、それぞれ会長、役員として技士会に貢献したことから連合会より表彰されました。